

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202445		
法人名	医療法人 愛健会		
事業所名	グループホーム あいけん(武階)		
所在地	佐世保市上本山町1092-1		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成26年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医院併設である事やグループホームに看護師が常勤しており、状態変化に早く気づき対応することが出来、入居者様や、ご家族も安心されている。また、身体状況、精神状態に合わせたリハビリを受ける事が出来、医師や、リハビリスタッフ等とも連携をとり、職員が一体となってサポートしている。地元の小、中学校の職場体験や短大等の実習を受け入れ、入居者様との交流の場を作っている。またスタッフも実習受け入れで自らのスキルアップに勤めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは国道に面した住宅や商店など地域住民の生活圏内に位置し、母体法人医療機関の一角にある。医療機関の特長を生かし、理学療法士や作業療法士の意見を取り入れた生活支援を行っており、健康管理が充実している。職員は、理念を理解し「心に寄り添うケア」「利用者の笑顔を引き出すケア」の実践に取り組んでいる。職員は積極的に研修に参加し、資格取得にも意欲的である。女性の利用者に心豊かな気分を感じてもらおうとエステ体験やバラ湯を取り入れたり、地域の歩行ラリーや風船バレー大会に参加し、利用者の意欲を引き出している。家族で構成する家族会で出された意見はサービス向上に活かしており、共に利用者を見守る支援者として協力体制を築いている。利用者の高齢化・重度化が進む中、介護技術に加え利用者の心に寄り添う支援に努めるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームあいけん（三階）
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域住民と一体となって運営していき、また、研修会や勉強会に参加し、知識を高め共有し、理念に沿ったケアで安心した生活を送っていただくよう努めている。	7項目で構成する理念はホーム内に掲示している。中でも「家・家庭的・質の高いケア」をキーワードに職員は周知し実践している。家庭的な雰囲気の中で、本人本位の生活ができるための支援や季節感を五感全てで感じることができるような支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域開催の歩行ラリーや公民館祭り、夏祭りに等に参加したり、近くのスーパーへの買い物、また散歩に出かけたりしている。地元スーパーからの食材の仕入れ等し、業者の方とも毎日の様に交流している。	母体法人医療機関併設のホームであるため、地域住民と日頃から交流しており、食材の購入も地元商店を利用している。地域主催の夏祭りや歩行ラリーに利用者と参加し、公民館祭りには作品を出展している。実習生や職場体験を通して子ども達との交流も回数が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修会や勉強会にも多く参加し、認知症の人の理解支援の方法を併設医院の広報誌や毎月のホーム便り、また家族会等で説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、利用者の動向、介護認定結果、行事实績等を報告し、会議参加者から意見を受け入れ、サービス向上に生かしている、	年6回規程メンバーで開催しており、ホームの状況や行事を写真や資料を基に報告している。今年度はリビングを会議の場とすることで、参加者により深く利用者を知ってもらう機会となり、質疑応答や活発な意見交換ができています。意見から園児達との交流機会の検討に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の市の担当者からの情報や、グループホーム協議会開催の勉強会に参加して情報交換をしている。また疑問点等あれば直接、市に問い合わせている。	担当課とは、事業所の状況報告や不明な点を問い合わせ、相談している。また、他利用者にかかわる他行政担当部署とも各種手続きに於いて連携している。介護や健康面の最新情報をもらい、職員は研修・講習会への参加しており、今年度は保健所主催の講習会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄錠の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会への参加で身体拘束となる行為を理解し、出入り口に鍵をかけないように鈴をつけたり、ペット柵をしない方向で見守り出来るよう申し送りやカンファレンスで話あっている。	身体拘束をしないケアを取り組み、身体拘束について言葉がけも含め勉強会を行っている。利用者が不安に至る原因や危険回避の見守りについて、その都度支援方法を検討している。利用者に合った見守りを行うことで、利用者の自由な暮らしの支援に繋がっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加して職員同士で話し合いの場を持ち、知識を高め虐待防止に努めている。		

グループホームあいけん（三階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加しており、必要とあれば学んだ事を活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定等の際、書類を見ながら時間をかけ説明し家族の質問も受け理解、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、毎月の支払いにこられたとき話を聞いたり、直接話せない方の為にもエレベータ前に意見箱を設けたり、また家族会の時ご家族だけの話し合いの場を設け意見要望を出してもらい運営に反映させている。	家族の意見要望は、電話や面会時、運営推進会議の他、年1回の家族会などを通して把握している。受診予定日を早めに知りたい、職員の氏名や当日の勤務状況を知りたいなど意見が出され、事業所内で話し合い検討し、サービス向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部長、管理者が現場で一緒に働き、日頃より意見を求めたり、申し送りノートの利用や毎月のカンファレンスで意見、提案してもらい運営に反映させている。	職員は、朝、夕の申し送りや毎月のスタッフ会議などで意見、要望を提案しやすい体制である。職員からシャワーチェアやミキサー等の必要性について提案があり、購入し支援に活かすなど反映している。また、職員の介護技術向上に向け、資格取得に向けた支援を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	共に介護職として参加し日々の勤務の中で変化に気づき、問題等あれば話し合いの場を持ったり、研修資格取得等、職員の向上心を優先し、協力支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるよう勤務を工夫したり資格取得がし易いよう働きかけたりしている。結果内容は研修報告書提出とカンファレンス等で報告し、スタッフ全員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し勉強会に参加したり、他グループホームの運営推進会議への参加また、毎年他の4施設合同での風船バレー大会をしたりとスタッフ間の交流を図ったり情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がリラックスされている時間帯等に声掛けやお話を行い、不安や要望等をお聞きして安心して過ごされ信頼関係が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのお話しの方やアンケート等にて家族の不安、要望等を伺い、信頼関係を築き、さらに解決出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ともよく検討し、どのサービスが本人にとって一番いいのか見極めたうえで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ等、無理のない手伝いに協力してもらい、感謝の言葉を伝え、本人からも職員への感謝の言葉をもらい支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様に毎月発行するお便りや面会時に毎日の生活の様子等を伝えている。 行事にも無理のない参加をして頂き、家族と一緒に本人を支え協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重し家族との協力で自宅へ帰られたりしている。又、リハビリに行った際に以前からのリハビリ仲間の方々と会話を楽しんだりしている。	家族や知人の訪問は自由であり、一緒に食事や外出することもある。また、併設医療機関のリハビリ時や受診の待合いは知人・友人と会う機会となっている。地域事業所合同の風船バレー大会も馴染みの人達と触れ合うことを楽しみにしている利用者もいる。利用前からの詩吟や英会話個人レッスンなども支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションで皆で歌を唄ったりゲームに楽しく参加して頂いている。又、少人数で席の近い方との会話を楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際は、お見舞いに行ったり、ご家族の方とお会いした時は、その後の状況などをお聞きし、関係が途切れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人、ご家族に希望、意向などをお伺いし、日々の会話の中から好きな事を見出し、取り組めるよう、パズルやぬり絵など準備し、自己決定しやすい声掛けを行なっている。	利用者の半数が表出困難な状態である為、職員は利用者の表情や目の動き、日々の生活の様子から判断し、本人のペースに合わせて声を掛けて寄り添い、支援している。知り得た情報は、個別に記録し、朝、夕の申し送りの際伝え、職員間で共有する仕組みがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を参考に、ご本人との会話の中からこれまでの暮らし方や生活環境など把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態を把握しながらレクリエーション、お手伝い等を通じて有する力を発揮出来る場を設けている。個人ノートに状態の変化や気付いた事を記録し全員が目を通すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者や家族の意見を取り入れ、介護計画の作成をしている。月に一回カンファレンスを開き、情報交換をしながらその方に適した介護計画を作成している。体調に変化が生じた場合はその都度見直しを行なっている。	短期・長期で目標作成している。カンファレンス及び職員参加のモニタリングを実施している。職員は介護計画の支援内容をもとに日々支援し、様子を記録しモニタリングに繋げている。職員も支援目標作成に関わっている。家族や利用者の要望を含め作成し、説明後に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日中と夜間で色分けし、一日の様子、気づきなどを記録している。全員が目を通し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望を聞いて三階の入所者の方とゲームをしたり、行き来をし交流を計ったり、柔軟な支援やサービスに取り組むように努めている。		

グループホームあいけん（三階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事の参加等を家族も交えて参加し、交流をはかっている。近所の理髪店の方に来て頂き、散髪しながら楽しく会話されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけの病院等の確認をし、家族対応出来ない場合は支援している。併設病院医師が主治医となっておられる方が殆どで、診察には職員が付き添い結果を電話やホーム便りでお知らせしている。	法人医療機関以外のかかりつけ医受診は、家族の協力のもと継続している。受診内容は申し送りノートや個別記録に記載し、職員間で情報を共有している。家族にも受診内容を報告している。また、法人医療機関とかかりつけ医と連携を図っており、緊急時の対応も整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身状態等変化ある時は、看護師に申し送りしている。看護師休日の場合は併設の外來、病棟の看護師に協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行き、心身のケアに努め、ご家族と共に病院スタッフと情報交換をし、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取りの指針」「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し納得いただいている。併設している医院との連携を取り、支援に取り組んでいる。	看取りや終末期に関する指針があり、利用開始時に説明、同意を得ている。利用者の状況によって、医師・家族との話し合いの場を設け、最良の支援を検討している。看取りの事例はないが、職員は事業所の方針を理解し、褥創など重度化支援に必要な研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、併設病院の勉強会やグループホーム協議会での勉強会、消防署でのAEDの講習や応急手当の講習を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署等の協力を得て通報訓練や初期消火、避難訓練を定期的に行なっている。又併設病院との連携も取れており連絡方法も熟知している。	年2回、夜間想定を含む訓練を行っている。併設医療機関との合同訓練や町内会には非常時の連携を依頼している。自然災害時のマニュアル、備蓄品は整っている。災害対策については、運営推進会議で議題にあがり、話し合っている。但し、ホームへの消防署立会いがない。また誘導方法も今後の課題である。	合同訓練とは別にホームの状況を熟知してもらうことで、災害時の救助がスムーズになると期待できるため、消防署立会の災害訓練が待たれる。また、誘導の順番や居室確認など災害時の利用者の安全を確保するための対応方法を検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ支援ではパットの保管状況が見えない工夫や、居室のポータブルトイレにはカバーをかけている。職員も守秘義務、個人情報への取り扱いも徹底している。	職員は利用者の尊厳を重視した言葉がけに配慮し、家庭的な温かみのある会話となるよう利用者毎に対応している。他の利用者に聞かれたくない話は居室で聞くなど工夫している。失敗時は羞恥心に配慮し、声かけも周囲に配慮しながら、さりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から希望を聞き、「外出」や「電話をしたい」等、可能な限り実現している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝は無理に起こさず、自分のペースで起床されている。日中はその日の気分や体調に合わせて過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品等を購入し、洗顔、入浴後に使えるように支援し、月に一度、地域の理容室より出張して頂き、カットや顔剃りが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルで食事をし、会話を楽しんだり、介助がすぐ出来る様にしている。コップを下げて頂いたり、テーブル拭きを一緒にしている。	調理職員が2ユニットの献立作成と調理を行っている。献立には季節行事や嗜好を取り入れ、旬や地元の食材を使用しており、利用者も落やツワの下処理、干し柿やぼた餅作りを楽しんでいる。職員は利用者と一緒に会話を楽しみながら食事し、ハンバーガーやラーメンなど、利用者の希望で普段と違う外食も企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の摂取状態により、ミキサー食、トロミ食、キザミ食など対応している。食事以外にも入浴後やおやつ時等は水分補給にも心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアも見守り、声掛けしながら確認している。歯ブラシ、スポンジ等での仕上げ磨きも行なっている。歯科スタッフの口腔ケアも実施している。		

グループホームあいけん（三階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄をして頂いている。尿意、便意の無い方もオムツではなくリハビリパンツを使用していただき定時での確認を行ったり、間隔の長い方へは失禁がないように声掛けを行い促している。	利用者は介護度が高いものの、おむつ使用ではなく日中はリハビリパンツで過ごし、夜間は居室のポータブルトイレを使用している。職員は見守りと排泄チェック票を利用し、排泄感覚に合わせ誘導した結果、失敗が軽減している。薬に頼らず、マッサージ、水分補給、日中に運動するなどして排泄を促す工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声掛けや起床時の氷水の提供等を行なっている。レクリエーションでは体操を取り入れおり、参加を呼びかけ適度な運動への働きかけを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を決め、入所者に合わせゆっくりくつろいで入浴して頂いている。季節に応じてバラ湯、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を入れて楽しんで頂いている。	毎日入浴準備しており、週3回を目安に入浴を支援している。希望があれば毎日入浴できる。入浴拒否をする利用者はいない。快適な入浴となるよう、場合によっては職員が2人で介助している。浴室、脱衣所は暖かく、バラ湯、ゆず湯など季節の湯を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はレクリエーションやおやつ等の声かけをし、無理強いせずその時の状況で参加して頂き、夜間不眠があった時は午前中の眠気が強い為、夜にひびかない程度、少しの間横になって頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容はファイルに閉じ、すぐに確認出来るようにしている。処方内容に変更があった場合はその都度各個人のノートに記載し、申し送りもしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、テーブル拭きなど出来る範囲のことをお願いしている。又お買い物に出かけ好きなおやつ等購入されている。レクリエーションでゲーム、体操、歌等楽しまれている。又好きな英会話を居室で受けられている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に出かけたり、桜、藤、紫陽花、コスモスと時期にあった花見に出かけたり夏祭り、歩行ラリー参加などで気分転換をされている。ご家族と食事や自宅にと外出もされている。	買い物やリハビリ、通院の際に周辺を散歩している。利用者に季節の移ろいを感じてもらうため、桜や藤など季節ごとの花見のドライブを企画し、車椅子の利用者も一緒に外出している。利用者からの外出希望は少ないが、天候や体調に配慮し、屋上で弁当を食べるなど気分転換に配慮している。	

グループホームあいけん（三階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より金銭を預かり、一緒に買い物に行ったり、ご希望をお聞きして購入してきていたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出があったら、いつでも対応したり、県外におられるご家族を心配される場合、こちらから声かけ電話の支援をしたりしている。年賀状やお手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー、廊下には季節を感じられる飾りやちぎり絵、イベント事の写真を貼ったりしている。皆様の好きな音楽を流したり、時期々で温度湿度換気の調節をしている。	リビングは、自然光がやさしい明るさであり、利用者がゆったりと過ごせるよう調度類を配置している。廊下壁面に掲示する行事写真は利用者の楽しみとなっている。午前中に職員が掃除を行い、感染予防対策として手摺やドアの除菌拭きを行っている。加湿器を使用し、温度室温も管理しており快適な共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にテーブルを移動し会話したり、手作業を楽しんだり、又フロアーのソファや廊下隅の椅子で過ごしたりされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より家具や思い出の品、写真等を持ってきて頂き、利用者様が過ごしやすい空間作りを心がけている。居室のポータブルトイレはカバーをし直接見えないように工夫している。	居室は、利用者が使い慣れた物や趣味の小物など自由に持ち込んでおり、個性豊かな居室となっている。ベッドや家具の配置、飾付けの高さは利用者目線で検討している。ポータブルトイレの目隠しカバーを作ったり、毎日職員が清掃・換気を行い、家庭的な居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様のレベルに合った介助方法で、見守り、支持を行い、できることを無理強いすることなく、していただいている。又廊下や各箇所に手摺等の確保をし安全面に注意している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202445		
法人名	医療法人 愛健会		
事業所名	グループホーム あいけん(参階)		
所在地	佐世保市上本山町1092-1		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医院併設である為、入居者様の身体的、精神的な状態に合わせたリハビリが受けられ、グループホームと医院で常に情報交換を行なっているため、状態の変化が合った場合も医師、看護師、グループホーム看護師が連携を取り、すぐに指示を受け対応出来る体制になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示し「質の高いケア」とする為に色々な勉強会に積極的に参加し、情報を共有しながら入居者の方々にとって居心地良く生活できるように勤める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歩行ラリーや公民館祭り、夏祭りに参加し食材も地元商店を利用し他業者の出入りも多い。入居者様と一緒に近くのスーパーに行ったり、同じ地域のグループホームと風船バレー大会を催し交流を行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月ホーム便りを発行しご家族や院内に配布する事で認知症の方への理解と支援の方法を知っていただき又、年一回の家族会で説明したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで会議を行い、そこで出た意見や情報を取り入れサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただいている市職員の方との情報交換はもちろん、わからない点などは市に問い合わせるなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出入りロドアに鈴をつけたり、センサーマットを使用し行動を把握している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会等に参加し知識を深め、職員一人で問題をかかえこまないように連携し合い虐待防止に努めている。。		

グループホームあいけん（参階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し学ぶ機会があったが現在は対象者はなし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、についての当ホームの資料をもとに十分な説明を行い、改定の際には家族に意見等伺いながら、納得の行くよう説明しご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階入口に意見箱を設置し投函できるようにしている。来所時はホームでの様子を話し、質問や要望等を尊重し運営に反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートにて意見や提案を出し、出勤時は必ず目をとおり、毎月のカンファレンスでも話し合っており、より良い運営が出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の会話の中で表情や体調に気を配り無理な勤務体制にならないよう配慮している。研修や、資格取得の希望を優先し働き甲斐のある職場になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるよう勤務を工夫しながら受講できるよう働きかけ、法人内部での研修も定期的に行なわれており、技術、知識の習得に努めている。受講内容はカンファレンス等で報告し共有されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、グループホーム同士の職員でテーマを決め、勉強会などを行い質の向上を目指している。又、他のグループホームと風船バレー大会を開催し、利用者を含め職員同士の交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを取りながら話しやすい雰囲気を作り、困っている事や不安な事を聞き、安心して過ごしていただけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や、要望、意見等を聞き、職員間で検討し、連絡を細めに取りながら解決できるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅と相談検討し、充分納得のいく入居になるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、無理のない手伝いに協力してもらい、昔の知恵等を教わりながら同じ時間を過ごす事で関係をより深くしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、笑顔での挨拶を心がけ、入居者様の日常の様子や状況を伝えている。また、月に1度のホーム便りをでも生活の様子、写真、行事を載せ、行事にも無理のない範囲での参加をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リハビリや外来受診時、以前より親しくされていた方との会話も出来、面会に来られた際にはお茶をお出し和んでいただけるような支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでは全員で貼り絵に取り組み、又輪投げゲームでは、皆で輪になり一人一人の動きや表情が見えて、たのしめるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もリハビリや施設の行事でお会いする機会も多く、様子を伺ったり、声掛けを継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とのコミュニケーションを図り本人様の意思や意向を聞いている。困難な場合は、ご家族様からの情報や日常の様子から、本人の意思に近づけるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご家族様から情報を頂き、又本人からも以前の生活の話聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の一日の生活パターンや心身状態を、スタッフ全員で共有できるよう個人ノートに記録し申し送りを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の意見希望を取り入れ、スタッフ間で意見を出し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランチェックを毎日行い、又個人ノートに日頃の様子を記入し情報を共有、スタッフ間で意見交換など行い計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や行きつけの美容室がある方には同行している。移動が困難な方には、理容室に依頼しホームに散髪に来て頂いている。又その都度必要な本人の希望や状態に沿ったサービスに、取り組むようにしている。		

グループホームあいけん（参階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館祭りに作品を出展し、入居者様が地域の一員として認識できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院をかかりつけ医とされ定期的に診察、検査を受けておられる。歯科医の往診や口腔ケア等受けたりされ、又眼科等への受診の協力も行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中での気になる点や、入居者様の訴えなど色々な面に対応できるよう相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には面会を行い、病棟スタッフやご家族から情報を得、退院に向け協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りの指針」「重度化した場合における対応に係る指針」を入居時にお話し、状況を見て入居者や、ご家族への意思確認や説明を行い、兵世知医院スタッフとともに随時検討、支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設医院やグループホーム協議会のでAEDの実践や救急時の対応などの勉強会には全員で参加している。急変時の協力医院への連絡等も身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム協議会や院内主催の防火、防災対策講習や、消火訓練にも参加し、スプリンクラーも配備し消火に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で他の人から、聞かれたり、知られたくないような内容は各居室にて行なうように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話や表情の中で、不満、希望、をいち早く察知すると共に、特に1対1で接する場面がある時には相手の話をじっくり聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決まっていますが、その日の状況で無理なく対応し、入居者様の間で居室を行き来したり、談笑や手作業など、その人の希望に沿って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地元の理容室から月一回散髪の出張してもらい、希望に応じて髭剃り、顔そりもされている。衣類購入の希望があれば支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやテーブル拭き等、出来る範囲でお願いし、一緒にしている。年間を通して、行事や誕生日、駿の食べ物でめりはりをつけ、職員も一緒に会話を楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取状況を見ながら、食事形態を変えたりして、栄養バランスが崩れないように心がけている。時間を見ながら水分補給に心がけ声かけをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアは、見守りを行い、必要に応じて介助も行なっている。又定期的に歯科スタッフに来て頂き治療、口腔ケアを実施している。		

グループホームあいけん（参階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のたびにチェックを行い、時間を見ながら、トイレ誘導を行なっている。動作レベルに合わせ見守り、介助を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に十分な水分補給をしていただいております。夜間にも配茶を行なっている。レクリエーション時や必要に応じて個人的にも適度な運動を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態を把握し、その方の身体状況に合わせて、シャワーチェアを使用するなどして、入浴介助を行なっている。週3回の入浴を楽しんでいただけるよう、ゆず湯、菖蒲湯など季節を感じながら入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間も考慮しつつ、日中の休息も適度にとらせていただいている。フローTV前にはソファを設置するなどリラックス出来る空間作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルに閉じ、いつでも見れる場所へ保管している。入居者それぞれの薬を朝・昼・夕・食間・眠前と小分けにセットし、服用時には作成しているチェックリストにて確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、野菜の皮むき等、無理強いやせずしたい方に家事に参加していただいている。又、レクリエーションの内容も個々に本人が希望されるものを提供したり全員で楽しむ事が出来る内容にしたりと工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜、藤、紫陽花等の見物ドライブの他、気分転換にホーム周辺を散歩したり、近くのスーパーへ買い物にお連れしたりしている。また、たけんの夏祭りや地区のウォークラリーに参加している。		

グループホームあいけん（参階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される物を預かり金で買い物の代行をしたり、また、一緒に出かけて購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも本人が希望されるときに代行で掛けて本人に渡したり、聞き取ったりと個々に応じて対応している。また、年賀状作成やポストへの投函等も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアには季節に応じた壁面飾りや入居者様による作品等も展示している。また、各居室には自分で作成されたカレンダーを毎月飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに着座しTVを見たり、歌を唄ったり、また、ご自分の席で新聞、読書、おしゃべり等自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や趣味の物、また、観葉植物等、本人が希望される物を見やすい位置に置き落着ける空間を心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	月一回のカンファレンスにはもちろん、スタッフ同士が意見交換し一人一人の能力に合った見守り介助を行なっている。		